

造礁サンゴ移植の現状と課題

鹿熊信一郎
第4回サンゴ礁保全・再生にむけての
統合沿岸管理分科会
2008年12月25日
東京

サンゴ移植のマニュアル類等が多い理由

- ・サンゴ移植は、植林と比べて技術開発の歴史が浅く、まだ開発途上にある。
- ・関係者の間で、サンゴ移植が必要かどうか、その優先順は意見が分かれている。

サンゴ移植のマイナス要因

- ・遺伝的攪乱を起こす、ドナー群体を傷つける、密漁を助長する。
- ・移植で簡単にサンゴ礁を再生できると誤解を与え、移植が免罪符となって乱開発を抑制できなくなる。また、より重要な保全行動へ向かうべき力をすり替えさせてしまう。

サンゴ移植に対する考え方

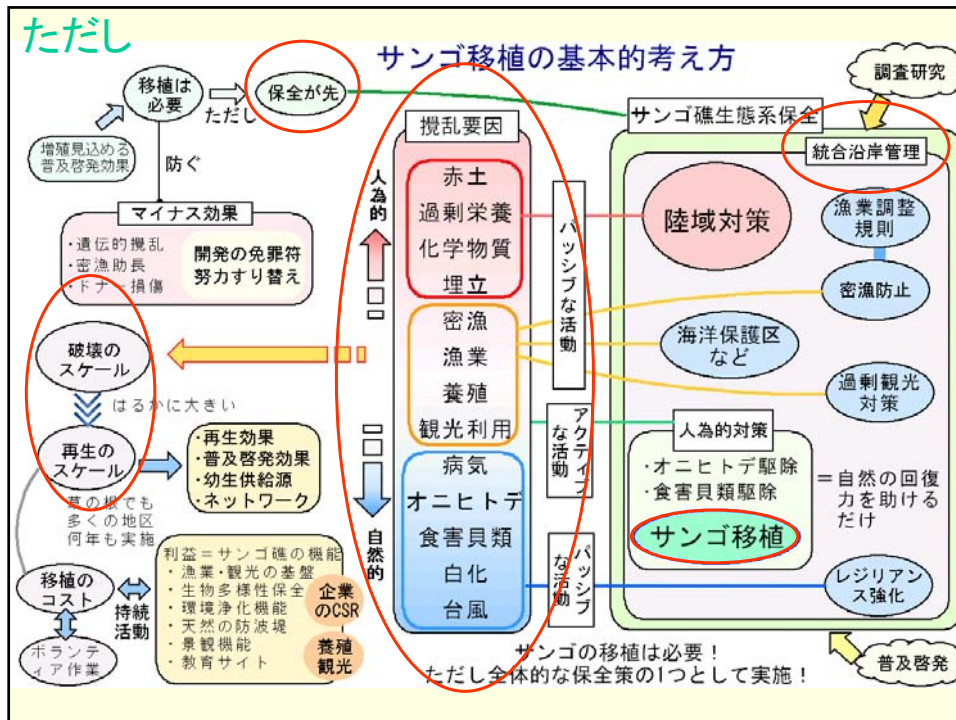
1. 移植をどんどん推進すべき
2. 移植は普及啓発効果が高いので必要、ただし、全体的な保全策の一つ
(技術的に増殖可能、普及啓発目的だけはダメ)
3. 移植は導入点とし、その後により重要な保全策へ向かう
(移植のサンゴ増殖効果はそれほど大きくない)
4. 移植はやっても良いが、その前にやる必要がある
(4.5 有性生殖法は良いが、無性生殖法はダメ、等)
5. 移植はやるべきでない

個人的な考え方

- ・研究者だけではサンゴ礁は保全できない
(主役は行政・民間)
- ・研究者・行政・民間の連携が必要
(サンゴ礁保全の仲間を増やす！)

「移植は必要で優先順も比較的高い」

- ・増殖が見込める段階まで技術は進んだ
- ・普及啓発効果が高い(陸域からの負荷等, 人為的かく乱要因に対処するのに重要)



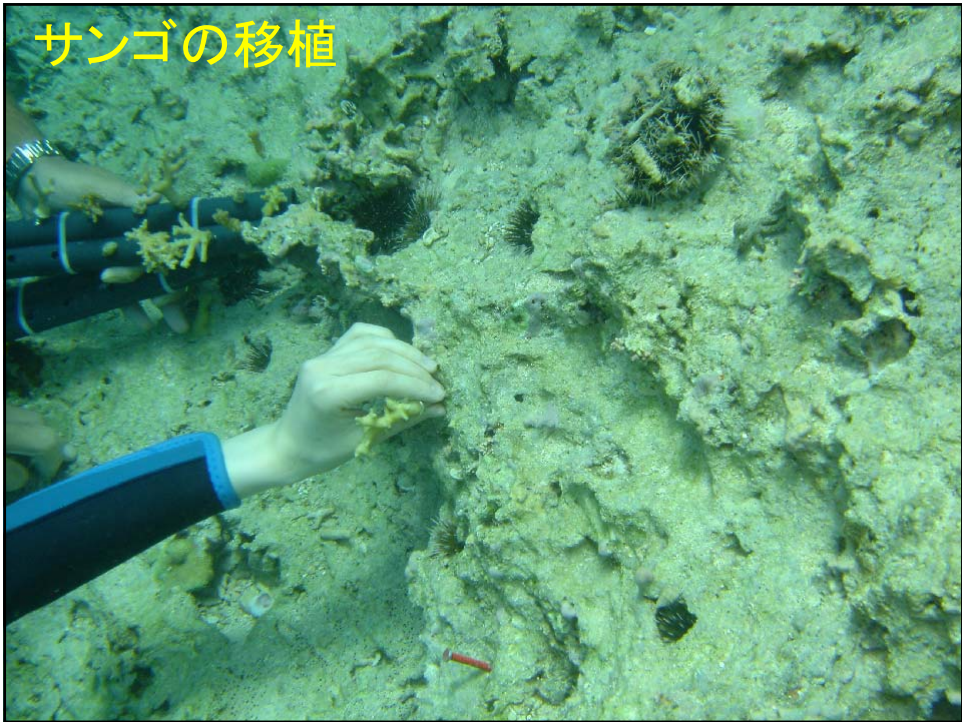
サンゴ移植の方法

無性生殖を利用する方法

- ・天然海域からサンゴ断片を採取・育成し、ボン
ド等で固定。
- ・水中ボンド，素焼きピン，巻バネ，板チョコ法，
電着法，等

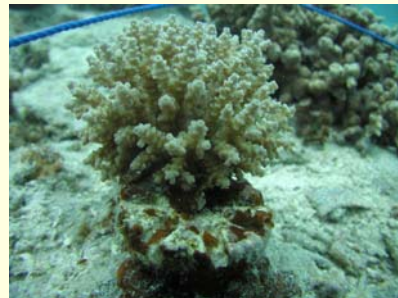
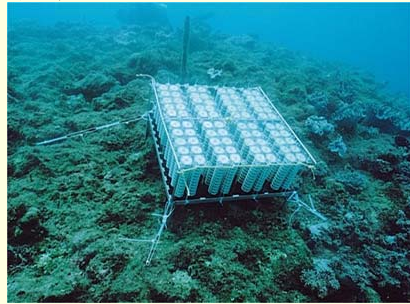
有性生殖を利用する方法

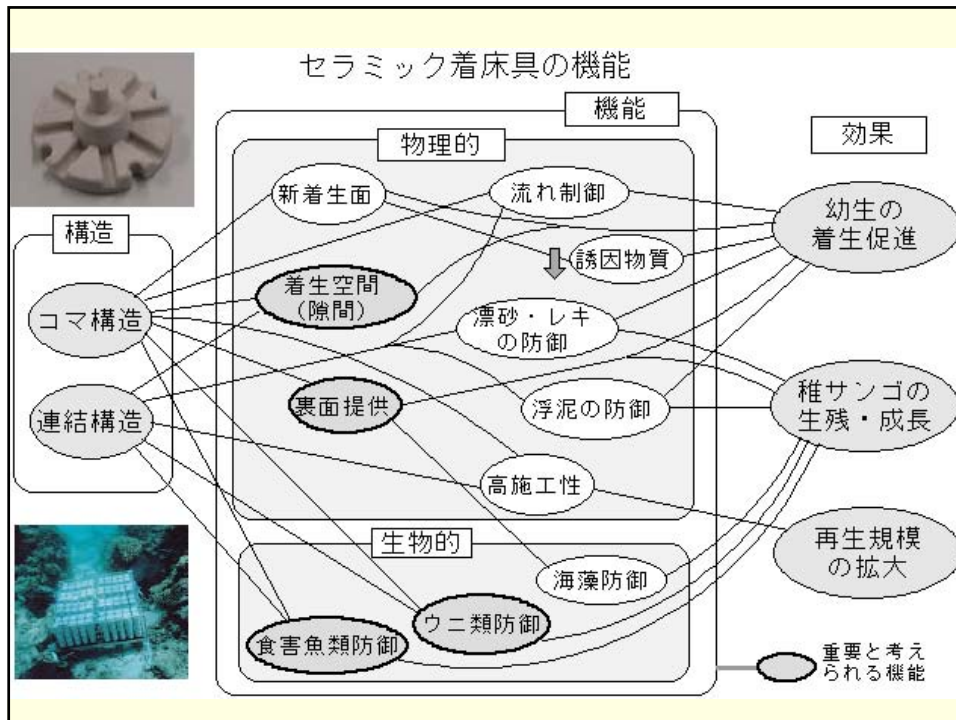
- ・卵や幼生を採取して利用する
- ・セラミック着床具，硬質ネット，タカセガイ育成
礁，幼生放流，阿嘉島方式，等



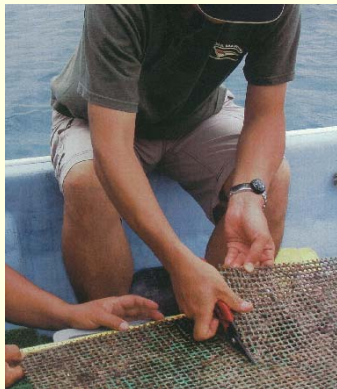


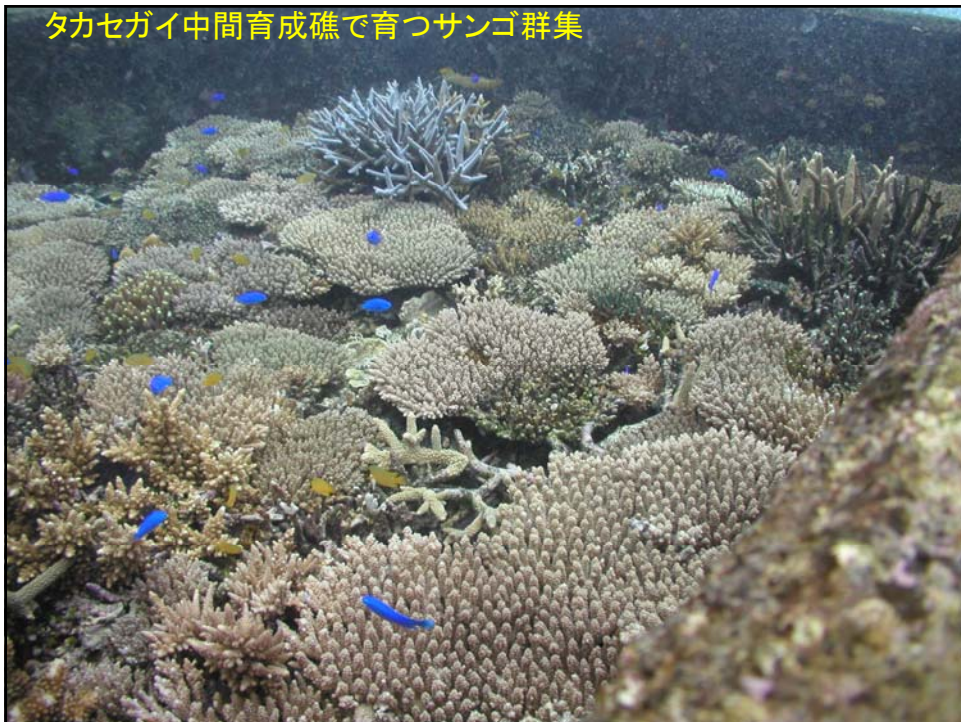
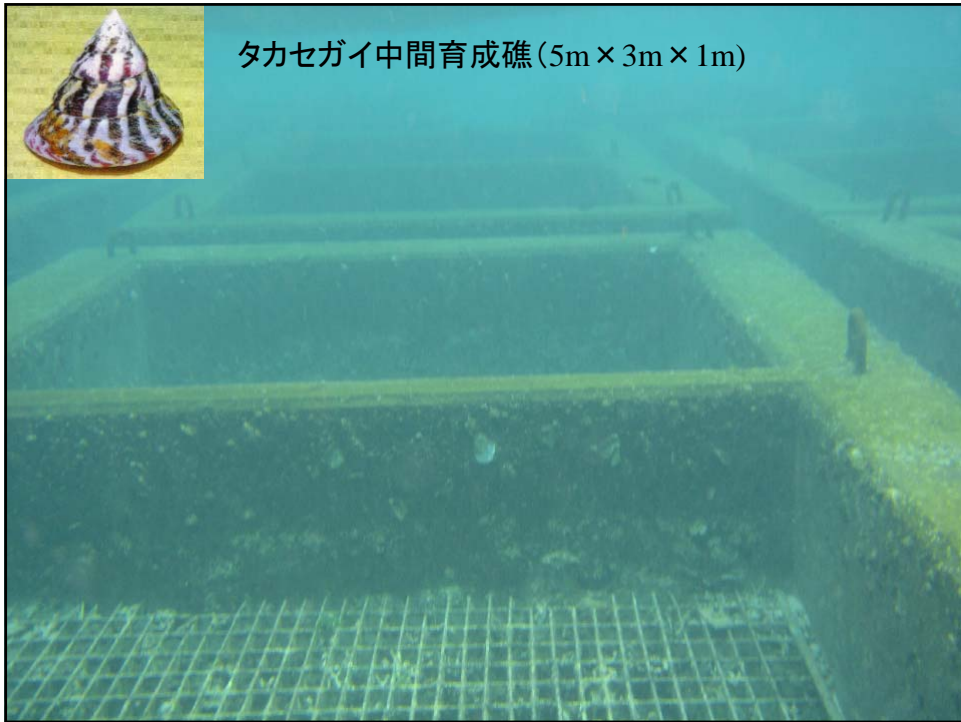
セラミック着床具の方法





硬質ネットを使う方法







阿嘉島地先の海面を漂うスリック Omori 2008より



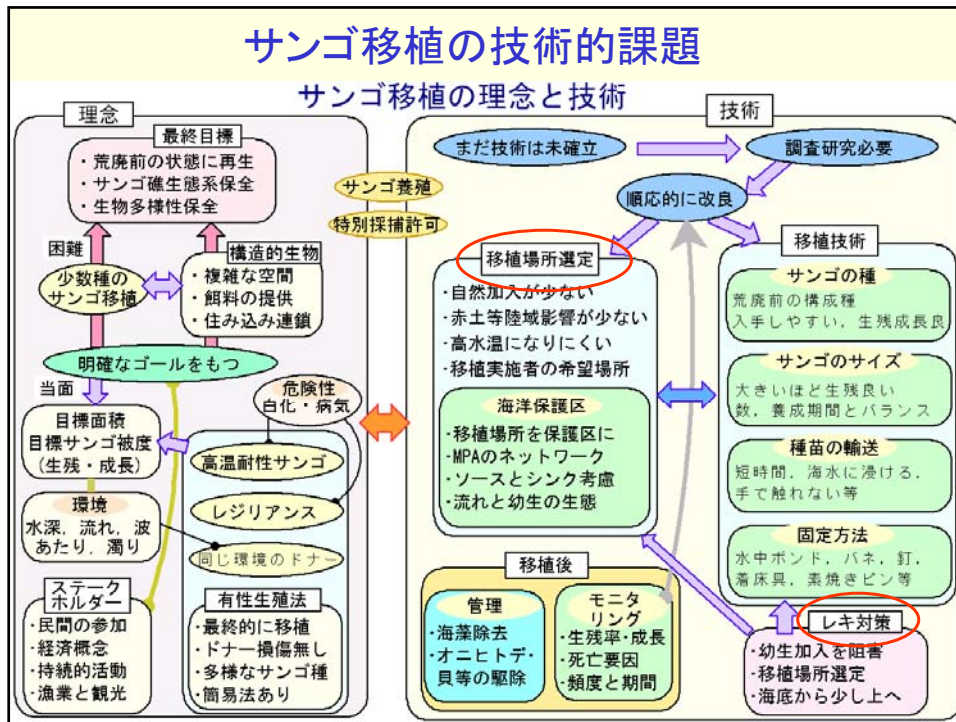
海面生け簀でサンゴ幼生を飼育 Omori 2008より



海中のかごでタカセガイとともに育成 Omori 2008より



阿嘉島のサンゴ種苗生産センター
Omori 2008より



サンゴ養殖・特別採捕許可(特採)にも 課題は多い

- ・過剰な観賞用サンゴ養殖は、過剰な種苗採捕、密漁の助長等、生態系に悪影響
- ・移植用種苗の養殖にも課題
- ・特採には、密漁の防止、ドナーサンゴの保護、流通段階での管理、等の課題

移植用サンゴ種苗の需要は増大する
→ 特採の運用を柔軟に